てだこ浦西駅の交通結節機能強化に関する検討（原案）R7.2月時点

沖縄県 都市計画・モノレール課

資料１－４

（1）てだこ浦西駅の整備背景

- 沖縄都市モノレールは開業から20年が経過、県民、観光客の足として利用され、まちづくりの推進や交通渋滞の緩和に大きな効果を発揮している。
- 終点のてだこ浦西駅については、**沖縄自動車道との接続による広域交通軸の形成**、**本島中北部地域からの定時・定速性や時間短縮等の利便性向上**を図るの目的で整備された。

■本島の骨格を形成する公共交通体系

（2）てだこ浦西駅の現状と求められる姿

- 現状のてだこ浦西駅は、**高速バス、路線バス等の二次交通の結節が十分とは言えず、駅で乗り換えられる移動手段も限定的**であるなど、**駅での乗換機能の強化**が求められている。
- 現状の駅は**人が交流したり、集うような賑わい施設等が無い**ため、道路高架下や交通広場の空間を活用し、**賑わい・溜まり施設の充実**を図る必要がある。
- 現状の駅は**観光案内や防災機能が十分ではない**ため、**観光客等の移動利便性向上及び防災機能確保**に向け、自治体と連携した取り組みが求められる。

（3）整備方針（案）

- てだこ浦西駅の交通結節機能強化においては、以下の**３つの機能をベースとして整備・検討に取り組む**。
- 将来的な目標に向けては、駅を取り巻く環境の変化も踏まえ、**関係機関や事業者等と連携し、段階的な整備に取り組む**必要がある。

交通（乗換）機能

- 本島中北部以降の高速バス、広域路線バス、自動車等の**移動の乗継拠点として機能する結節点整備**
- 駅周辺を結ぶ**多様なモビリティの拠点整備**
- **P＆R駐車場、駐輪場等の利用者への対応**
- **乗換案内改善**（ﾓﾉﾚｰﾙ ⇔ ﾊﾞｽ等の交通間乗換）

拠点形成機能

- **賑わい創出、憩いの場の提供**

ランドマーク機能

- 本島中北部（駅周辺含む）への**観光利用の経由地としてふさわしい観光情報発信機能の充実**
- 駅周辺の**空間等を活用した防災機能の充実**

イメージ図：将来の交通結節点（沖縄県総合交通体系基本計画より）

てだこ浦西駅の交通結節機能強化に関する検討（原案）R7.2月時点

沖縄県 都市計画・モノレール課

（4）今後の検討について

- 令和6年度は、現状分析・ヒアリング調査等を実施し、関係者会議による意見交換も踏まえ、交通結節機能強化に関する整備方針（案）を年度末までに取りまとめる。
- 令和7年度は、協議会を設置し、整備方針に基づいた**事業内容や実施主体（役割分担）の検討**を行う。あわせて、**PIや実証実験を実施し、より具体的な整備内容の整理**等も進めていく。
- 令和8年度は、上記の検討を踏まえ整備計画を策定し、関連する上位計画にも位置づけたうえで、今後の事業展開を図る。

令和6年度 → 令和7年度（次年度） → 令和8年度 → 令和9年度～

整備方針（案）

関係者協議・具体化

❶協議会の設置案

学識経験者や交通事業者、民間事業者、行政等の関係者が参加する協議会を設置する

❷事業内容、実施主体の設定

関係者で役割分担等を協議し、事業内容、実施主体、事業スケジュールを設定する

❸ PI（住民参加）

住民参加型の意見交換や、大学生等を対象とした意見交換を実施する

❹実証実験

イベント、憩いの場の設置、情報案内の試験的設置など、事業の具体化に向けた実証実験を行う

ゆいレール祭りの様子（2024.11.9）

整備計画の策定

事業の実施、展開